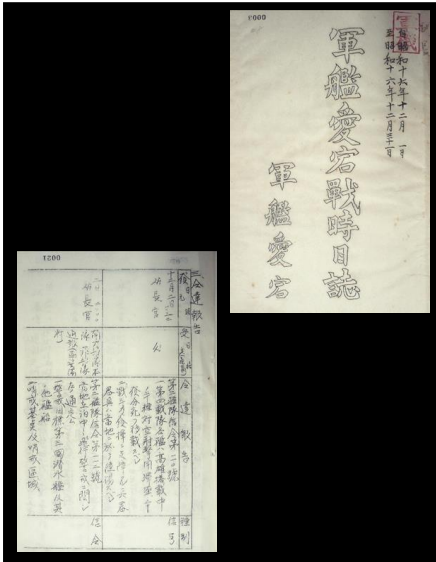


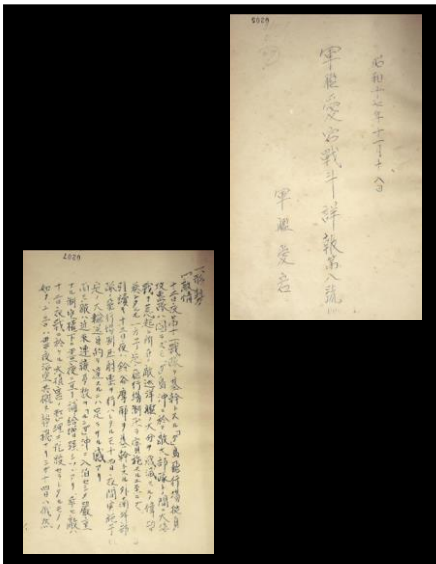
平成29年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎月一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

《 近藤 信竹 1886～1953年 》
—大阪府出身の海軍大将—



軍艦愛宕戦時日記 (登録番号: ④-戦艦詳報戦時日記-1016)

近藤信竹大将は、明治40年11月、海軍兵学校(35期)を卒業後、軍令部の作戦課長や第1部長、軍令部次長などの要職を経て、昭和16年9月1日、第2艦隊司令長官に就任(昭和18年8月8日まで)、開戦を迎えます。山本五十六連合艦隊司令長官の次席指揮官として、マレー、フィリピンの攻略を担当する南方部隊(比島部隊、馬來部隊、航空部隊、潜水部隊、南方部隊本隊)の総指揮官を兼任した近藤中将は、旗艦の重巡洋艦「愛宕」の艦上から全般作戦を指揮、緒戦の勝利に貢献します。この史料は「軍艦愛宕戦時日記」(昭和16年12月1日～同年12月31日)で、期間中の主要な命令・報告・通報、敵に関する情報、作戦に関する事項などが、毎日記録されています。戦時日記(陸軍では陣中日誌と呼称)は、1カ月ごとに指揮系統を経て大本営に提出されました。



軍艦愛宕戦闘詳報 (登録番号: ④-戦艦詳報戦時日記-1018)

ミッドウェー作戦(昭和17年6月)で攻略部隊指揮官、ガダルカナル島(「ガ」島)をめぐるソロモン諸島方面の海戦(昭和17年8月～同年11月)で前進部隊指揮官を兼任した近藤中将(昭和18年4月29日、大将に進級)は、第2艦隊を指揮、米艦隊と交戦します。特に第三次ソロモン海戦(昭和17年11月12日～14日)では、最前線で指揮を執り、「ガ」島への陸軍増援部隊の輸送援護にあたります。しかし米艦隊の反撃を受け、日本軍は戦艦2隻を失い、輸送船団も大損害を被ります。以後「ガ」島周辺海域の制海・制空権は、米軍の手に帰します。この史料は、第三次ソロモン海戦の「軍艦愛宕戦闘詳報」(昭和17年11月18日付)で、彼我の状況や戦闘の経過、戦果などが記されています。戦闘詳報は、戦闘終了後その状況を詳しく上級指揮官に報告するもので、陸海軍とも戦闘詳報と呼称しました。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。
防衛研究所企画部企画調整課
専用線：8-6-29171、29175(史料紹介コーナーのみ29651)
外線：03-3260-3011
FAX：03-3260-3034 ※ 防衛研究所ウェブサイト：www.nids.mod.go.jp